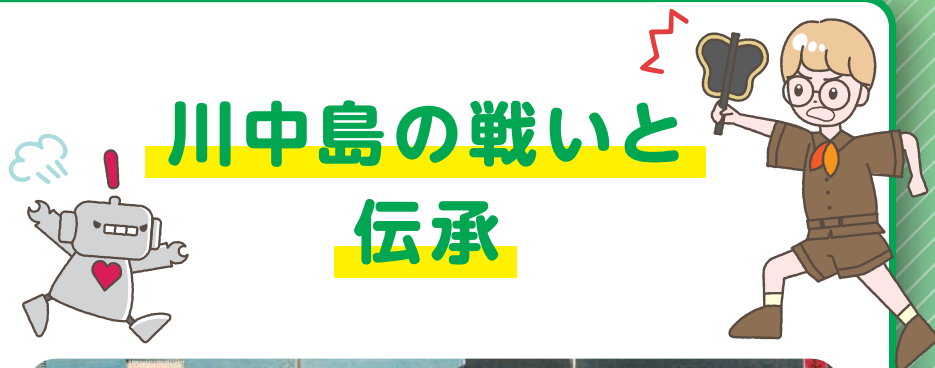


Story 3

川中島の戦いと 伝承



▲ 武田信玄と上杉謙信の一騎打ち錦絵
(長野市立博物館蔵)

中 世にたびたび戦乱の舞台となった長野市域ですが、その中で最も広く知られているのが甲斐国（山梨県）の大名・武田信玄と越後国（新潟県）の大名・上杉謙信によって繰り広げられた川中島の戦いです。信濃支配を進めていく武田信玄と、それによって領地を追われた北信濃の領主（国衆）を支援する上杉謙信との間で、約10年で5度にわたって合戦が行われました。

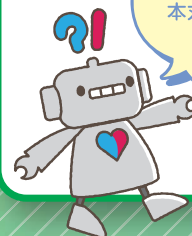
Story 3 川中島の戦いと伝承



特に激戦となった永禄4（1561）年の八幡原の戦いでは、信玄と謙信が一騎討ちをしたとも伝えられています。また、信玄の弟である武田信繁や家臣の山本勘助が討ち死にするなど多数の戦死者を出し、市域には彼らを弔うための寺院や墓所、首塚など関連する史跡が残されています。



▲ 松代城跡（海津城跡）
【国指定史跡】



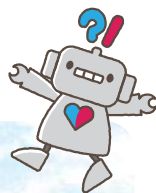
茅井地区にある
葛山城は市内最大級の山城。
本丸やたくさんの堀の跡を
見ることができるよ！



▲ 葛山城跡【市指定史跡】

Story 3 川中島の戦いと伝承

上杉謙信が
本陣をおいた場所だよ。
松代城や千曲川など
長野盆地が一望できるよ!



▲ 妻女山から松代城跡を望む

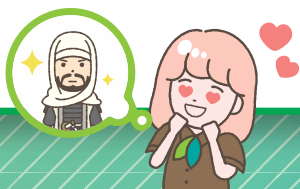


武田信玄の弟
武田信繁を弔うために
建てられたのじゃ!



▲ 典厩寺 てんきゅうじ

合戦から450年以上が経過した現在でも、全国から多くの人々が川中島古戦場史跡公園を訪れており、ゲームやマンガ、アニメの中で、信玄と謙信は戦国時代を代表する人物として幅広い年代に親しまれています。川中島の戦いと信濃の武士をめぐる「物語」は人々の心を惹きつけてやみません。



Story 3 川中島の戦いと伝承



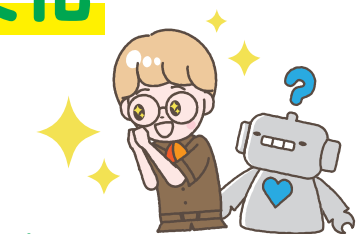
Story 4

松代城下町に伝わる 武家文化



▲ 昇梯子の具足（真田信之の父、昌幸所用）

真田家は、真田信之が上田から松代へ移ってきて以降、約250年間にわたり松代藩主をつとめました。真田家伝来の大名道具は真田



松代藩の成立と 真田家の武家文化

松代城は、甲斐の武田信玄と越後の上杉謙信による川中島の戦いの際、武田側の築いた海津城がそのはじまりです。その後城下町が整備され、松代は北信濃支配の政治拠点として重要な役割を担うようになりました。

Story 4 松代城下町に伝わる武家文化

宝物館に収蔵されており、甲冑や刀剣といった武具や、屏風・掛軸などの書画、お嫁入りの道具など、華やかな武家文化を今に伝えています。

水の利用と庭園文化

松代は、広大な水堀で囲まれる松代城を中心に、千曲川の支流となる小河川の扇状地上に町が造られています。城下町には水路網が張り巡らされ、「水路内へ洗濯物等を浸しておくこと」など水を汚す行為は松代藩の水道奉行によって禁止されていました。

武家屋敷には、周囲の山並みを借景とする庭園があり、中央に泉水（庭池）があることが一般的でした。各家の泉水は、「泉水路」と呼ばれる特徴的な水路によって結ばれ、観賞目的以外にも、防火用水や菜園等への水やり、冬の融雪など、生活に密着して利用されました。



▲ 松代の水利用イメージ



▲ 旧山寺常山邸【国登録記念物】の泉水路

Story 4 松代城下町に伝わる武家文化



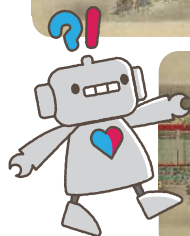
▲ 大門踊り【市指定無形文化財】



▲ 真田信之の霊屋【重要文化財】

城下町の寺社と祭礼

松代には真田家が上田から移ってくる以前から続く寺社や、真田家にゆかりのある寺社など多数の寺社や祭礼が今も残っており、松代地区の歴史文化を生み出しています。また、長國寺の真田信之の霊屋をはじめとして、西楽寺の真田信重霊屋、大英寺の大蓮院霊屋など真田家の先祖を祀る建物が複数現存していることも特徴の一つです。



▲ 江戸時代の祇園祭の様子(「松代天王祭図巻」真田宝物館蔵)

Story 4 松代城下町に伝わる武家文化



城下町の祭礼として町人による天王祭(祇園祭)があります。町ごとに舞台や山車を繰り出し、最後に松代城の大御門前で「大門踊り」を踊ったことが「松代天王祭図巻」に描かれています。この天王祭や大門踊りは、現在まで継承されています。



▲ 松代焼(真田宝物館蔵)
【市指定有形民俗文化財】

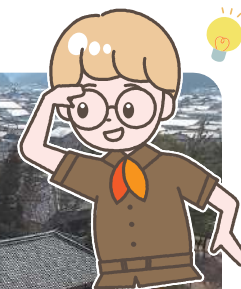
歴史文化を守り伝える風土

城外御殿である新御殿(真田邸)、松代藩の藩校である文武学校は、敷地

全体と当時の建物がほぼ現存する全国唯一の事例です。このほか、重要文化財である旧横田家住宅などの武家屋敷、真田家ゆかりの寺社などの建造物や道筋、水路網など、城下町には数多くの伝統的な環境が残されています。また、松代町柴地区で採掘され、庭石や石垣等に利用される柴石、温泉水を釉薬に利用した松代焼など、地域資源を利用した伝統産業も今に伝えられています。



▲ 松代藩 文武学校 遠景【国指定史跡】



Story 5

善光寺・門前町に息づく 歴史文化と祭礼

江戸時代末弘化4年(1847)の大地震による火災被害の様子



▲『地震後世俗語之種』(真田宝物館蔵)

門前町の立地と歴史

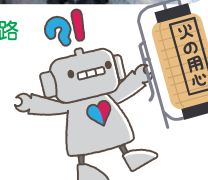
善光寺は、緩やかな南下りの扇状地に位置し、古くから集落が営まれた場所に建てられています。何度も火災にあった善光寺では、江戸時代の再建の際火災を避けるため、本堂を北の空き地に移して土塁で囲み、湯福川を迂回させました。

Story 5 善光寺・門前町に息づく歴史文化と祭礼

この時に現在の本堂、三門、経蔵が築かれ、本堂跡地には、仮設店舗である仲見世が広がり、その周囲には宿坊群が連なる現在の町並みの原型ができあがりました。その後も江戸時代末や明治の火災で仁王門や仲見世、宿坊群の多くが被害を受けましたが、そのたびに再建されてきました。このため善光寺門前町には土蔵や店蔵造りの建造物、防火用の石組水路など、防火対策を意識した跡があちこちに見られます。



▲ 防火用の石組水路



▲ 門前町の商家の建物 (ちよつ蔵おいらい館)
[国登録有形文化財]

善光寺・門前町で営まれる祭礼

江戸時代になると、旅行資金を積み立てて代表者が善光寺へ参拝する善光寺講が各地で組織され、全国からの参拝者が増加しました。受け入れ先となる宿坊は、それぞれが独立した寺院であり、本尊を安置する小御堂、参拝者が宿泊する庫裡、門、中庭などで構成されています。

Story 5 善光寺・門前町に息づく歴史文化と祭礼

御開帳盛んにして御山内繁昌の図



▲『地震後世俗語之種』(真田宝物館蔵)



現在、大勸進のもとに天台宗25院と大本願のもとに浄土宗14坊の計39軒の宿坊があります。

善光寺最大の催事である御開帳には、他国に出て行く「出開帳」と善光寺で実施する「居開帳」があります。弘化4年(1847)の「御開帳盛んにして御山内繁昌の図」では江戸時代の居開帳の様子が窺えます。

現在の御開帳は、数え年で7年に1度ごとに開催され、秘仏である本尊の代わりに本尊と同じ姿の前立本尊が公開され、前立本尊から伸びる「善の綱」が本堂前の回向柱に繋がれます。参拝者は回向柱に触れることで前立本尊と結縁したことになります。回向柱は、松代藩が本堂再建にあたった縁により、今も松代地区から寄進されています。

Story 5 善光寺・門前町に息づく歴史文化と祭礼

また、善光寺の南西に位置する弥栄神社では、門前の各町所有の屋台が門前町内を巡行する天王祭(祇園祭)が行われており、「善光寺祭礼図巻」に描かれた伝統的な祭礼が現在も受け継がれています。



▲江戸時代の祇園祭の様子(「善光寺祭礼図巻」真田宝物館蔵)



Story 6

自然と信仰が紡ぐ 戸隠の歴史文化



▲ 険しい山なみの戸隠山

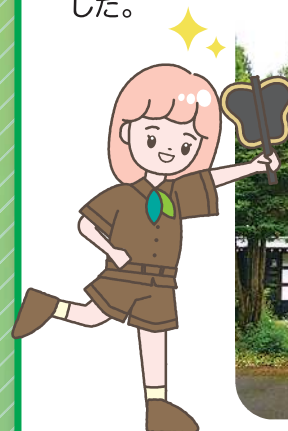
約 200万年前に海底から隆起をはじめ、とても険しい山並みとなった戸隠山には、山に入って厳しい修行を行うことを目的に修験者が多く集まり、約850年前には全国にその名が知られる霊場（修行場）となりました。戸隠山の麓にはいくつもの寺院が開かれましたが、なかでも顕光寺には奥院、中院、宝光院という3つの拠点を整えられ、現在の戸隠神社奥社、中社、宝光社のもととなりました。



▲ 鏡池

Story 6 自然と信仰が紡ぐ戸隠の歴史文化

戦国時代には武田・上杉の争いに巻き込まれて一時荒廃しますが、その後は上杉景勝の支援によって再び寺院や境内が整えられました。戸隠神社奥社参道の杉並木もこの頃に整備されたものとされ、今に至るまで戸隠の人々の手によって大切に守り伝えられてきました。



▲ 戸隠の宿坊（旧徳善院・極意家）



▲ 戸隠神社奥社参道の杉並木と随神門

Story 6 自然と信仰が紡ぐ戸隠の歴史文化



▲ 竹細工の笊に盛られた戸隠そば

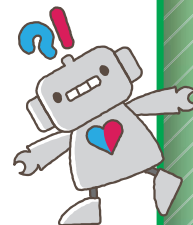
戸隠山は「水の神」としても篤く信仰され、江戸時代には「戸隠講」と呼ばれる信者たちの集団が各地に広がり、多くの人々が戸隠へ参拝に訪れました。戸隠を訪れた人々は参道沿いの宿坊に宿泊し、祈祷やお札をいただくとともに、「そば切り」などの精進料理によるもてなしを受けました。戸隠のそば切りは、今では「戸隠そば」としてその名を轟かせており、竹細工のそば笊に「ぼっち盛り」で盛られた手打そばをひと口味わおうと、全国から多くの観光客が訪れています。



▲ 戸隠の竹細工（長野県伝統的工芸品）

Story 6 自然と信仰が紡ぐ戸隠の歴史文化

自然と信仰によって古くから多くの人を惹きつけてきた戸隠には、史跡や歴史的町並みの中に伝統的な祭礼、食文化、工芸品などが受け継がれ、自然と人々の営みが融合した歴史文化をいたる所に感じることができます。



▲ 戸隠神社式年大祭（渡御の儀）



▲ 柱松神事

